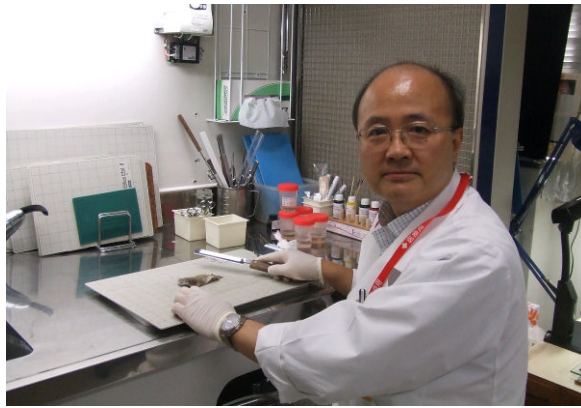




病理科の紹介

診療部長 濱田 新七

はまだ しんしち



病理科の業務は二つある。一つは生検組織や外科切除材料あるいは細胞診検体の病理診断を行うことであり、もう一つは、不幸にして亡くなられた方のご遺体を病理解剖(剖検)し、病態と死因を解明するとともに、生前の治療について評価を行うことである。

近年、どの医療機関でも生検件数が増大の一途を辿っているのに反して、剖検数は激減している。剖検数が減る傾向は「J」導入の頃から見られたが、激減してきたのはMRIが普及し始めの頃からだったという印象

を持っている。画像診断技術が凄まじい進歩を遂げたため、それだけで病気が分かるかのような錯覚に陥りそうになるが、開けてびっくりということも時々経験する。

91歳で亡くなった女性を病理解剖した時のことである。彼女は生前、「自分が死んだら遺体を解剖して医学の進歩に役立てほしい」と主治医に常々言っていた。彼女は自宅で亡くなった。家族の話では、以前から動脈硬化による様々な病気をかかえてはいたが、蝋燭の火が消えるように亡くなったとのことである。老衰によるもので、特に病理解剖する必要がないかもしれないが、本人のたつての希望であり、病理解剖してほしいと家族から要望があった。生前、亡くなった本人と主治医との間で病理解剖をするという約束も交わされていたため、ご遺体が自宅から病院に搬送され病理解剖が行われた。

腹部を正中切開してまず目に飛び込んできたのは、黒変した胃と小腸と大腸であった。胃と腸は拡張し、その内容は合計1000mlの血液であった。失血死である。なぜこんなことが起こったのか。大動脈全体に強いアテローム硬化症があり、腹腔動脈幹と上腸間膜動脈の起始部に強いアテローム硬化症とともに潰瘍と血栓が形成されていた。血栓が徐々に成長して、ついに腹腔動脈幹から胃十二指腸動脈を閉塞し、また、上腸間膜動脈を閉塞したようである。

血栓の成長につれて消化管虚血が徐々に始まり、高齢であることから痛みもあまり感じないうちに出血量が増加し、血圧が低下して脳貧血状態になり意識が薄れ、そうこうするうちに完全閉塞して、胃・腸壊死から大量出血による失血死に至ったと考えられる。消化管からこれほどの大量出血があっても、吐血血がなければ分からない。外からは、静かに息を引き取り、大往生を遂げたようにしか見えない。

動脈硬化は加齢とともに進んでいく。この解剖を経験して以来、老衰で亡くなったとされるものうちかなりの割合が、最期は血管病変で亡くなっているのではないかと考えるようになった。

検査

		月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
午前	腹部エコー	●	●	●	●	●
	消化管透視	●		●		●
	上部消化管内視鏡	●	●	●	●	●
午後	大腸内視鏡	●	●	●	●	●
	超音波内視鏡(EUS)	●		●		●
	ERCP	●	●	●	●	●

消化器内視鏡センターの整備完了に伴う検査予約
 枠の変更について、左記のように変更しましたのでご
 予約いただきますようよろしくお願いいたします。

※ ERCPは入院でのみ、他の検査は外来で行っています。

※ すべて予約検査です。受診のうえ、外来担当医とご相談ください。

NEW FACE



四方・吉川

健康講座のご案内 17時30分～18時30分

10月19日(火) 呼吸器外科: 戸田 省吾
 肺がん手術のウラ話

CPC開催のご案内 17時30分～

10月21日(木) 剖検例を対象としたCPC

研修会のご案内

10月28日(木) 14時～15時30分
 訪問入浴デモンストレーション

11月18日(木) 17時30分～19時
 今日からできる効果的・効率的な

禁煙支援のポイント 実践編

NPO法人京都禁煙推進研究会 山門 桂 他

～上記すべて9階会議室～

市民公開講座のご案内

10月31日(日) 13時～15時20分

肝臓病教室-肝臓癌にならないために-

～びわ湖ホール<中ホール>～

地域医療連携室人事異動のお知らせ

新任 四方 美幸(看護師) 4月26日付

吉川 麻紀(MSW) 8月16日付

前任者同様ご指導の程

よろしく願いいたします。

退任 眞治久美子(MSW) 6月30日付

福田 知美(看護師) 7月14日付

長きにわたりご指導いただき

ありがとうございました。

